平成２８年度募集対策プロジェクト取組み結果報告書

<table>
<tr><th colspan="2">ＰＪ４</th><th>25 歳以下の若年者に対する新たな広報の具体案検討と実施</th></tr>
<tr><td colspan="2">取組みの
主旨</td><td>本校はこれまで新規高卒者を中心とした募集を行ってきたが、１８歳人口の減少に伴って新規高卒者も減少しており、一方で他大学に進学後に中退又は中退を考えている者、就職後に改めてものづくりの分野へ転進したいと考えている者など、高校卒業後に不安定な状況にある者に対して、新たに本校を周知し、概ね２５歳程度までの若年者の学びなおしの機会を提供する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">平成 28 年度に検討した事項</td><td>○　過去２年間本校に入校した、新高卒以外の入校者数を調査した。その結果、新高卒以外の入校者は１０数%であり、一般入試においては受験者の約３割が、新高卒以外であった。
○　２５歳以下に本校を PR するための広報手段を考えるにあたり、新高卒以外の在校生にアンケート調査を実施することを検討した。
○　２５歳以下に本校を PR するための広報協力をいただく場所として、横浜・川崎の新卒応援ハローワーク、かながわ若者就職支援センター、市民センターや公民館などの公共施設を挙げ、これらの場所への広報手段を検討した。
○　上記への広報依頼のため、２５歳以下へ向けた専用チラシを作成することとし、まず、新卒応援ハローワークやかながわ若者就職支援センターへ訪問し部門責任者及び窓口担当者に直接依頼することを検討した。</td></tr>
<tr><td colspan="2">平成 28 年度に実施（活動）した事項</td><td>○　新高卒以外の在校生へ入学に至った経緯等の聴き取りアンケートを実施（1 年生 16 名、2 年生 22 名）**【別紙ＰＪ４－１】**。アンケート結果は**【別紙ＰＪ４－２】**
○　２５歳以下へ向けた募集広報チラシを作成**【別紙ＰＪ４－３】**
○　平成 29 年 1 月 5 日に、横浜新卒応援ハローワーク・かながわ若者就職支援センター、平成 29 年 1 月 10 日に川崎新卒応援ハローワークを訪問し、本校に関する説明・PR と大卒見込者、既卒者等への本校紹介とともに、専用チラシ・募集案内等の配架を依頼した。</td></tr>
<tr><td colspan="2">成果</td><td>○　一般入試で、新高卒以外が昨年度より 6 名増加の 24 名になり、昨年度は０人であったハローワークの紹介が１名、区役所のケースワーカーの紹介も１名いた。
○　追加募集 10 名応募のうち、かながわ若者就職支援センターの紹介が 2 名あった。</td></tr>
<tr><td colspan="2">今年度の取組結果に関する所見（考察）</td><td>○　大学卒業後未就職のため相談に訪れる求職者に対しては、今回の取り組みにより繋がりができ広報を継続できると思われる。
○　ただし、大学中退者や高卒後フリーターなど求職活動をしない者はハローワークを利用しないため、広報効果が小さいことがわかった。
○　専用チラシの完成が１月上旬にずれ込み、関係機関への配布が募集期間中になってしまったため、今回は新卒応援ハローワークとかながわ若者就職支援センターへの配布のみとなった。しかし、専用チラシとしてのベースが整ったこととで、次年度以降は早期に効果的に配布できると思われる。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">平成29年度の取組指針</td><td>平成 29 年度に取組むべき事項</td><td>○　ハローワーク以外で、２５歳以下へ PR できる場所の開拓や、広報手段を検討する必要があり、他の PJ チーム（特に「PJ5：**運転免許試験場又はその他施設、各種メディアを活用した広報の検討と実施**」）との連携も必要であると思われる。
○　在校生へのアンケート結果より、大学中退者が約３割いることを考慮すると、大学のカウンセラー等との連携も検討したい。
○　既卒者が受験しやすいように、一般入試で、既卒枠の設置を検討する。
○　在校生への詳細なアンケートは、入校してすぐに実施した方が、記憶も新しく効果的である。「PJ1：**在校生・保護者アンケートの実施**」と連携をとり実施する。</td></tr>
<tr><td>平成 29 年度以降の成果指標</td><td>○　受験者アンケートの本校を知ったきっかけ欄に、「HW で情報を得た」や「25 歳以下へのちらしを見た」など、本取組みで実施した内容を入れることにより、取り組み効果を測ることができる。</td></tr>
</table>